

連載



今回は損をしてしまう理由の一つが、損をしたタイミングで運用をやめてしまうことであり、その解決策として長期投資の実践が有効であるというお話をしました。今回は「株価が急に下がった時はやっぱり怖い…」というお客さまの不安に対し、有効な解決策についてお話をします。その方法は、分散投資の実践です。

リーマンショック時、先進国の株価は60%超下落しましたが、例えば4資産（国内債券、外国債券、国内株式、外国株式）に分散投資をしていればその下落幅は36%に抑えられました（いずれも2007年10月末と09年1月末を比較）。このように、リスクの大きい資産と小さい資産を組み合わせることで、歴史的な大幅下落の際にも保有資産全体の値動きは調整が可能です。しかし、分散投資の効果は単純に「怖いから」という不安を取り除くだけではありません。

資産価格が大きく下落してしまうと、元に戻るまでには下落率以上の上昇が必要になります。図表1のように、1万円だった資産が5,000円になれば下落率は50%です。しかし5,000円が50%上昇しても、5,000円×1.5=7,500円にしかならず1万円には届きません。1万円に戻るために必要な上昇率は100%です。これに対して、下落

が8,000円にとどまった場合は下落率が20%となりますが、もし再び20%上昇した場合には8,000円×1.2=9,600円まで戻ります。このように大きな下落をできるだけ抑えることで、元の価格に戻る時間は早くなると考えられます。下落の影響を相対的に下げる期待ができる分散投資の実践は、資産を着実に増やしていくためにも有効であると言えるのです。

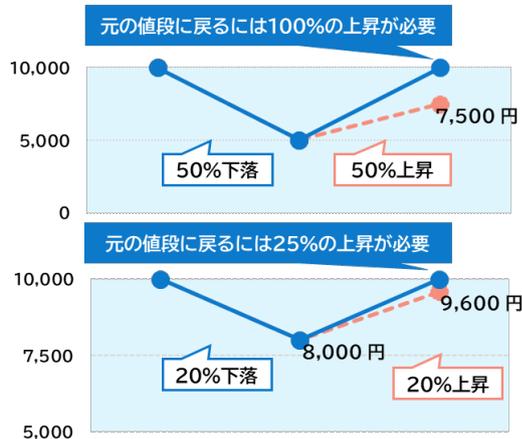
分散投資についてもう少し深掘りします。意外に知られていないのが、分散投資のリスク低減効果です。

実は異なる資産を組み合わせると、リターンは各資産の平均になる一方で、リスクについては平均より小さくすることが期待できます。図表2にあるように、例えば国内債券と国内株式のリスク水準がそれぞれ年率2%と同18%の場合、50%ずつ保有した時のリスク水準は、(2%+18%)÷2=10% (●)ではなく、年率10%を下回る水準 (★)へと低減します。これは、複数の資産を組み合わせることで、個別の資産が持つリスクの相殺が期待できるからです。もし2資産へ均等に分散した時に、リターン・リスクどちらも半分になれば分散投資の意味はありません。●と★を比較し、リターンが同じ水準であるのに対して、リスクは小さくなるという点が重要です。つまり、分散投資の実践により運用の効率化（シャープレシオの改善）が図れたことになるのです。誰でも同じリターンが期待できるのであれば、できるだけリスクが小さい運用を望むはずですが、このような分散投資効果についての理解がもう少し深まれば、お客さまへの提案はより説得力を持つと思います。

(執筆:りそなアセットマネジメント

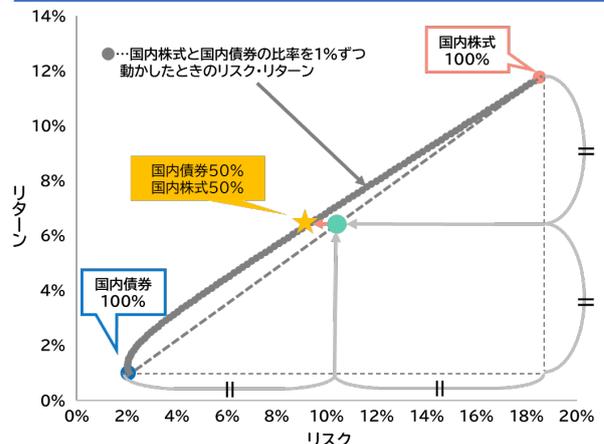
未来資産形成ラボ所長 南川 久)

図表1 大きな下落を抑える理由



※図表はイメージです 出所:りそなアセットマネジメントが作成

図表2 分散投資のリスク低減効果



※図表はイメージです 出所:りそなアセットマネジメントが作成